

# 令和7年度天皇杯受賞者受賞理由概要 むらづくり部門

## 海と山の絆で苦難を超えて 次世代にしなやかにつなぐ

○集団等の名称 入谷の里山活性化協議会（代表 阿部 國博）

○所在地 宮城県本吉郡南三陸町

### ○受賞理由

#### ・地域の沿革と概要

南三陸町は、宮城県の北東部に位置し、東は太平洋に面し、三方を標高300～500mの山々に囲まれている。入谷地区は町内約12,000人の人口の中で2,000人弱が暮らす農村地区で、美しい里山の景観と豊かな森や田畑が広がっている。東日本大震災前から、地域にある自然の恵みや伝統文化を生かした学びの場の提供や交流促進を図り、農作業体験・モノづくり体験・調理体験などの体験プログラムの開発なども含め、グリーン・ツーリズムにも力を入れている。コロナ禍で迎えた震災から10年という節目の令和3年に「このまま応援しているだけではせっかく震災前から頑張ってきた入谷地区の取組が継承されなくなってしまう」と地域の中心にいた住民たちが若者を中心とした人材育成や新たな事業創出などに動き出し、当協議会が発足した。

#### ・むらづくり組織の概要

構成員として、入谷地区の「食・体験・宿泊」を担うことができる各種施設の団体が加盟しており、「南三陸まなびの里いりやど」、「ひころの里コンソーシアム」、「南三陸農工房」、「校舎の宿さんさん館」、「南三陸YES工房」、「入谷サン直売所」の6団体が主な構成員である。下は20代、上は70代と幅広い年齢層で、地元出身者も移住者も混ざり、男女様々なメンバーで和気藹々と取り組んでいる。

#### ・むらづくりの取組概要

##### (1) 農業生産面

- ① 農業体験施設「南三陸農工房」を利用して様々な野菜を育てており、農作業や収穫の体験を通じて町外からの来訪者との交流促進とファンづくりを行っている。また、近年若者の新規就農や地域で活躍する里山保全団体も発足している。
- ② 「入谷サン直売所」は、生産者の顔が見える場所としての大切さを意識して、継続的に取り組むことにより、年間1千万円の売上を上げている。
- ③ 令和6年には、「しおかぜ葡萄」という新たなブランド葡萄の販売を開始し、地域の所得向上に寄与している。

##### (2) 生活・環境整備面

- ① 旧小学校舎を宿泊施設「さんさん館」、江戸時代末期に建築された在郷の藩士住宅を体験施設「ひころの里」、旧中学校技術家庭科室を「南三陸YES工房」として活用している。
- ② 宿泊・学び・交流の拠点として、研修室や和室、食堂、ワーケーション棟なども整備した「南三陸まなびの里いりやど」は、南三陸町全体の来訪者を受け入れる場として機能している。

#### ・他地域への普及性と今後の発展方向

本地区では、地区の文化や農業・林業などのなりわいの継承など様々な面で、移住者など地域の若者たちと共に地域おこしに励んでおり、地域資源や人材を活かした特色ある活動を行っている。旧中学校を活用したモノづくり工房で里山からの木材を加工、旧小学校を活用した宿泊施設、農作業体験、パワースポットや里山をツアーコースにするなど多彩なイベントを企画し、新たな雇用を生み出している。地域全体の総意により、農林業だけでなく、文化面も含め総合的なむらづくりを推進している本取組は、全国のむらづくりのモデル事例になり得るものである。